

安全データシート

作成日:2025年06月01日

1. 化学品(製品)及び会社情報

製品名: パラフィンワックスHNP-11

化学品物質等の名称:

固形パラフィン

会社名:

山桂産業株式会社

住所:

大阪府大阪府中央区平野町1丁目8番3号

電話番号:

06-6231-3277

FAX番号

06-6201-3187

緊急時の電話番号:

06-6231-3277 (土日祝を除く 9:00~17:00)

メールアドレス:

info@yamakei.jp

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

健康有害性

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

区分2B

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

区分3(気道刺激性)

※上記で記載がない危険有害性は「分類対象外」もしくは「分類できない」

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

警告

危険有害性情報

眼刺激

呼吸器への刺激のおそれ

注意書き

安全対策

取り扱い後は手をよく洗うこと

粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーの吸入を避けること

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること

応急措置

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを

着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を

続けること。眼刺激が続く場合: 医師の診断、手当を受けること。

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で

休息させること。気分が悪い場合は医師に連絡すること

保管

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと

廃棄

内容物/容器を国/地方の規則に従って廃棄すること

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別

化学物質

化学名又は一般名

固形パラフィン

化学式

 C_nH_{2n+2}

含有量 wt. %

100

化審法番号

(8)-414

安衛法番号	既存
Cas No.	8002-74-2
4. 応急措置	
吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること 気分が悪い時は、医師に連絡すること
皮膚に付着した場合	多量の水と石鹼で洗うこと 皮膚刺激が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること
溶融ワックスの場合	皮膚に付着した部分を水に浸し冷やす(氷水及び氷パックをあてがうのも有効である)。しかし、身体の10%以上を火傷した場合はショックを与えることがある為、前述の冷却処置を行わず、速やかに医師の診察を受ける。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること
予想される急性症状及び遅発性症状	眼、鼻、喉を刺激する。
5. 火災時の措置	
適切な消火剤	水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	棒状放水
特有の危険有害性	熱、火花及び火炎で発火するおそれがある 激しく加熱すると燃焼する 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する 安全に対処できるならば着火源を除去すること
消火活動を行う者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣(耐熱性)を着用する 消火作業は可能な限り風上から行う 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具 及び緊急時措置	関係者以外の立ち入りを禁止する 適切な保護具を着用する こぼれた場所はすべりやすいため注意する
環境に対する注意事項	漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する 汚水を下水道にそのまま流さない
封じ込め及び浄化の方法及び機材	掃き集めて、容器に回収する 乾燥した土、砂、不燃材料に吸収もしくは覆って容器に移す
二次災害の防止策	着火した場合に備えて、消火用器材を準備する 全ての発火源を取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)
7. 取扱い及び保管上の注意	
取り扱い	3,000 kg 以上の量を貯蔵又は取り扱う場合には市町村条例に定められた基準を満足すること。
技術的対策	局所排気、全体換気: 排気、換気設備を設ける
安全取扱注意事項	取扱中は飲食、喫煙してはならない 粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーの吸入を避ける 屋外又は換気の良い場所でのみ使用する 眼に入らないようにする。
保管	
適切な保管条件	日光から遮断し、換気の良い場所で保管する
避けるべき保管条件	酸化剤から離して保管する 固体で保管する場合、直射日光を避け、冷暗所で保管する 溶融状態で貯蔵する場合は高温過熱にならないように注意する

適切な容器包装材料

溶融状態で貯蔵するタンク、容器の材質はステンレス鋼が適している
銅および銅合金は品質劣化の原因となる

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

未設定(労働省告示第26号 作業環境評価基準)

許容濃度

日本産衛学会 未設定

(ばく露限界値生物学的ばく露指標)

ACGIH TLV-TWA 2mg/m³ ヒュームとして
ACGIH(米国産業衛生専門家会議)TWA(8時間加重平均):
パラフィンワックスヒュームの許容濃度 2mg/m³
(ヒュームは蒸気が凝縮してできた微粒物質)

設備対策

排気、換気設備を設ける
洗眼設備を設ける
作業場ないし貯蔵場には安全シャワーを設置する
高熱取扱いで、工程で粉じん、ミスト、ヒュームが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する

保護具

呼吸器の保護具

換気が不十分な場合、適切な呼吸器保護具を着用する

手の保護具

保護手袋を着用する
推奨材質:非浸透性もしくは耐化学品ゴム

眼、顔面の保護具

適切な保護眼鏡を着用する

皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣を着用する

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

ろう状固体

色

白色

臭い

わずかな臭気あり

融点

68°C

沸点、初留点及び沸騰範囲

情報なし

可燃性

情報なし

爆発下限界及び

該当しない

爆発上限界／可燃限界

引火点

260°C

自然発火点

情報なし

分解温度

情報なし

pH

該当しない

動粘性率

該当しない

溶解度

水:不溶

n-オクタノール／水分配係数

log Pow > 6

蒸気圧

情報なし

密度

0.76g/cm³, at 100°C

相対ガス密度

該当しない

粒子特性

情報なし

10. 安定性及び反応性

反応性

自己反応性なし

化学的安定性

通常の条件下で安定

危険有害反応可能性

酸化剤、強酸類と反応する。自己反応性なし

避けるべき条件	長時間加熱、火炎、発火源
混触危険物質	酸化剤、強酸類
危険有害な分解生成物	情報なし
11. 有害性情報	
急性毒性	
経口	ラット LD ₅₀ >5000mg/kg
経皮	ウサギ LD ₅₀ >3600mg/kg
皮膚腐食性／刺激性	ウサギ試験でnot irritating と slightly irritating ヒト皮膚刺激性試験の結果ではnot irritating
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	ウサギでslightly irritant 及びmild irritant 区分2B
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	in vivo 試験のデータなし Ames試験(in vitro変異原性試験)で陰性
発がん性	IARC該当せず ACGIH該当せず
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	気道刺激性 区分3
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	情報不足
誤えん有害性	情報なし
12. 環境影響情報	
生態毒性	水生毒性情報なし
残留性・分解性	微生物による分解性あり
生体蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	モントリオール議定書の附属書に列記されていない
13. 廃棄上の注意	
廃棄物の処理方法	内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること
14. 輸送上の注意	
国際法規制	
国連番号	該当しない
国連品名	該当しない
国連分類	該当しない
副次等級	該当しない
容器等級	該当しない
特別の安全対策	3,000kgを超えて移送する場合にはイエローカードを携帯すること 食品や飼料と一緒に輸送してはならない 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に 重量物を上積みしない
バルク輸送におけるMARPOL条約 附属書II 改訂有害液体物質及び IBCコード	供給された状態の製品には該当しない

15. 適用法令	
毒物及び劇物取締法	該当しない
消防法	指定可燃物、可燃性固体類
労働安全衛生法	名称等を表示すべき有害物(法第57条、施行令第18条) 令別表第9、固形パラフィン(2025年3月31日以前) 規則別表第2、固形パラフィン(2025年4月1日以降) 名称等を通知すべき有害物(法第57条の2、施行令第18条の2) 令別表第9、固形パラフィン(2025年3月31日以前) 規則別表第2、固形パラフィン(2025年4月1日以降) 皮膚等障害化学物質等(規則第594条の2) 非該当
化管法(PRTR法)指定化学物質	該当しない
水質汚濁防止法	日当たり平均的排水量50m ³ 以上の特定事業場に適用される排水基準 生活環境項目 ノルマルヘキサン抽出物質含有量(鉱油類含有量): 5mg/L
海洋汚染防止法	ばら積み運送:有害液体物質(Y類物質)パラフィンワックス 個品運送:海洋汚染物質(P)に非該当
下水道法	鉱油類排出規制(5mg/L許容濃度)
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物規制(拡散、流出の禁止)
16. その他の情報	
引用文献及び参考文献	1)本製品の製造会社による安全データシート 2) ICSC(J) (2003):国際化学物質安全性カード パラフィンワックス ICSC番号1457 3) 厚生労働省:GHS対応 モデルSDS 固形パラフィン 4) IUCLID (2000) 5) RTECS (2008) 6) 農薬安全情報(1992) 7) JECFA (1993) 8) JECFA (2003) 9) EHC20 (1982) 10) PATTY 5th (2001) 11) 2023 許容濃度等の勧告(日本産業衛生学会) 12) 2024 TLVs and BEIs. (ACGIH) 13) NITE-化学物質管理分野:GHS分類結果 ID21B3029固形パラフィン(平成21年度) 14) P.Shubik et al.: Toxicol Appl, Pharmacol. , Suppl, 4, 62 (1962) 15) A.O.Hanstveit:TNO Report, Netherland orga, for Appl, Resear (1990) 16) 日本ワックス工業会:“ワックスの生分解性について”会報 第13号,4~34(1995) 17) Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (6th ed., 2015), UN 18) Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 22nd edit., 2021 UN 19) Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1 ECNO6182012) 20) 2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK(US DOT) 21) JIS Z 7252 (2019) 22) JIS Z 7253 (2019)
災害事例	情報なし

記載内容については、現時点での資料や情報に基づいて作成されたものであり、記載のデータや評価に関しては情報の完全さ、正確さを保証するものではないことをご了承ください。
すべての化学製品には、未知の有害性がありうるため、取扱いには細心の注意が必要です。
ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定いただきますようお願いいたします。
尚、製品の詳しい説明、またご不明の点などありましたら、弊社担当者までご連絡ください。